

令和元年度 くまもと・わくわく基金 
冠基金 東京エレクトロン九州・マッチングギフト
冠基金 公益社団法人 熊本法人会ファンド



事業報告

団体名：

ことう文庫の将来を考える会

助成事業名：

本を通して地域がつながり、子どもをはぐくむ文庫へ

(1)実施内容

●開館

- ・ 毎週土曜日10時～12時
- ・ 長期休み中の特別開館
- ・ お話の時間
- ・ 工作や体験の時間



●コミュニティづくり

- ・ Book Café 開催
- ・ しめ縄作り
- ・ 年末大掃除
- ・ 地域の夏祭りに参加



●広報・データベース化

- ・ 毎月20日に町内回覧板で開館日と活動内容をお知らせ。メール配信。
- ・ ホームページ・ブログ更新
- ・ 小学校に内容の掲示
- ・ 本の紹介、工作・体験のデータベース



(2) 助成金の活用

- 町内への回覧チラシのデザイン委託費・印刷費
- 長期休暇期間中にお招きした講師や、開館のお手伝いの方への謝金
- 図書購入費
- 工作や食育体験の材料費
- 貸し出しに必要な文具類購入費

助成ありがとうございました。

2019年10月20日

11月 ことう文庫

◆あたらしい本◆

一人の子どもが泣いていて、周りのみんなは、はじまりを知らない。等、言い訳が続き、わたしのせいじゃない! 本当かな、責任について考えてみませんか?

2016年4月の熊本地震で被災し、打ちひしがれる人々のもどかにけづけた中学生ボランディア、その活躍に生きる力と希望をみえます。熊本市在住のイラストレーターやしまますみ氏による絵本です。

◆11月の開館日◆
時間：午前10時～12時

月日	内容
11/2 (土)	工作 文庫カルタ作り みんなで遊楽や健康にちなんだ談話を考え、絵を描き、ことう文庫オリジナルのカルタを作ろう! 【持ってくるもの】色えんぴつ
11/9 (土)	工作 文庫万年カレンダー作り ペットボトルのキャップを使って作るよ、どんなカレンダーができるかな?
11/16 (土)	工作 レジ袋でバラシューを作ろう!
11/23 (土)	お休み (たけみや祭りのため)
11/30 (土)	体験 イタリア語体験 & 工作 クリスマスオーナメント作り 【講師】有水佳代さん 【持ってくるもの】ハサミ

◆この1冊◆ 「びっくりまっぼっくり」
多田多恵子：文 堀川理乃子：絵 / 福音館書店
まっぼっくりは面白い。上から見たら花びらみたい、雨が降ったら、からが閉じて「しょぼりまっぼっくり」になってたよ、晴れたら、からが開いて「はりまっぼっくり」にもどったよ、どうしてこんなふうになるのかな? 最後は「びっくりびんづめまっぼっくり」の作り方が載っていますよ。

◆毎週、おはなし会を実施しています!◆
9月30日に、公益財団法人大阪コミュニティ財団からの助成金で購入した、杉の無垢材の本棚が入りました。木のぬくもりのあるあたたかみのある空間になりました。

和田誠さんを囲むコーナーを特設しています。

KBS) ことう文庫の将来を考える会
〒862-0909 熊本市東区湖東 2丁目 1-15 湖東公民館 2F
吉朝 090-9793-8607 小田川 090-5590-8929 長岡 090-7293-5874
https://kotoubunko.jimdo.com/

この文庫の活動内容はホームページをチェック!


協力：6町内自治会、6町内子ども会
*この事業は、熊本市市民公益活動支援基金（くまもと・わくわく基金）と同基金内に設置された「東京レクトロン九州・マッチングギフト」及び「公益社団法人熊本法人会ファンド」による助成を受けています。

(3)成果、市民の声(参加者やサポートを受けた方)

- ことう文庫令和元年度利用実績

小学生421名、大人155名、貸し出し冊数366冊、子ども向け開館39回
(平均子ども来館数11人/1回、平均貸出し冊数9.4冊/1回)

- 参加者の反応

- 定着して子どもたちが来館するようになり、
子どもの居場所として認知されている
- ホームページを見て町内外から訪れる親子もいる
- 多いときには20人以上の子どもの来館
(イベントや食育体験の時)がある
- 異年齢の子どもの交流、多世代の住民の
交流の場になっている



(4)今後の事業展開

- withコロナでどのように活動を継続させていくのか
→ **大変大きな問題**
- 令和2年度は1度だけ開館。手作りマスク販売と回覧チラシ発行は継続。
- 「熊本市のリスクレベル1以下の時に開館する」という規定を作って回覧・ホームページで周知。
- ことう文庫の存在意義を、メンバーで確認し合う機会となった。

子どもさんが、地域の大人に見守られながら、安心して本に親しみ、友達同士自由な発想で活動を広げ、大人とも友達とも心の交流をしていく他にはない互いの育ちの場として、ことう文庫を存続し続けたい。

- リスクレベルが高い間は開館せずに、冊数限定の事前申込制貸出を行う予定。子どもがいる家庭や町民とコミュニケーションをとりながら。